

## 研修員報告〈アイスホッケー 坂井 寿如〉



平成15年度・短期派遣  
(アイスホッケー)



### I. 研修題目

アイスホッケーにおけるコーチング全般

### II. 研修期間

平成15年8月6日～平成16年7月20日

### III. 研修地及び日程

平成15年

- ・ 8月6日～平成16年2月20日  
カナダ エドモントン
- ・ 10月18日 Coach Help Coach  
NHL エドモントン オイラーズ主催
- ・ 11月29日～30日  
コーチクリニック、intermediateライセンス取得
- ・ 12月14日  
コーチクリニック、ライセンス取得
- ・ 12月24日～平成16年1月7日  
アメリカ U-25 日本代表

平成16年

- ・ 2月2日～2月9日  
ノルウェー ゲジョビック ゲームスカウティング
- ・ 3月29日～4月10日  
ロシア ハバロフスク 日本代表
- ・ 4月17日～4月22日  
ラトビア リガ 日本代表
- ・ 4月23日～5月9日  
チェコ プラハ、オストラバ 日本代表 WC
- ・ 7月1日～7月4日  
カナダ カルガリー、インターナショナルコーチカンファレンス

#### (1) 主な研修先

コンコルディア大学、HOCKEY PROGLAM

#### (2) 受入関係者

- ・ ジム マクリーン コンコルディア大学アイスホッケーチーム監督
- ・ ビル モアーズ NHL エドモントン オイラーズ アシスタントコーチ

Hockey programアドバイザー

・ダン ピーコック Hockey programメインインストラクター

### (3) 研修日程

平成15年8月より平成16年7月まで

#### ①通常研修

コンコルディア大学のアイスホッケーチームにアシスタントコーチとして参加。

大学リーグ：名称 ACAC (Alberta College Athletics College)

参加大学 8チーム 4回総当り

- ・ Augustana University College
- ・ Mount Royal College
- ・ Briercrest Bible College
- ・ Northern Alberta Institute of Technology
- ・ Concordia University College
- ・ Red Deer College
- ・ Grant MacEwan College
- ・ Southern Alberta Institute of Technology

試合数：プレシーズン 7試合、リーグ  $7 \times 4 = 28$ 試合

プレーオフ上位6チームが参加

First Round Best of 3 6 vs 3 5 vs 4

Semi Final Best of 5 6 vs 3の勝者vs 1 5 vs 4の勝者vs 2

FINAL Best of 5

シーズンスケジュール：平成16年9月4日～9月14日 トライアウト＝選手選考

週間スケジュール：3日 氷上練習、1日 ミーティング、2日 試合、1日 休み

### (4) 研修内容

練習プランの作成

- ・ 年間プラン
- ・ 週間プラン＝週末の試合の反省を踏まえて、コーチミーティングで練習のポイントを確認すると共に、ライン組み合わせを変更、次回の対戦相手の分析、各チームの週末の結果を確認。
- ・ 日々の練習プラン＝前日の反省点を踏まえて、年間プラン、週間プランに沿って作成。

#### ①コンコルディア大学において

シーズンを通して、練習メニューの作成やゲームプランの作成などに関わり、チーム作りについて、理解を深める事が出来た。日々の練習でどうしても目先の事ばかりに集中しがちだが、年間プランを立てることにより、すべての技術カテゴリー、システム、セットプレー、スペシャルプレーなどをカバーする事を目的としている。これは、チームの勝利と総合的にアイスホッケーを理解させことを考え、限られた練習時間で、両方をカバーするのは簡単ではないが、出来る限りバランスをとり、取り組んでいる。

学生は、勉強とスポーツの両立をしなければならず、必要以上の練習量、拘束時間をとる事が出来ない。勉強で十分なスコアが取れなければ、1月から（9月から12月、1月から3月にシーズンが分かれている）プレーが出来なくなると共に、



スカーラシップ（奨学金）も受け取る事が出来ない。この辺は日本と違うようだ。

練習は、とにかく短い時間に効率よく行わなければならない、なおかつ授業の関係ですべての練習に参加できない選手もいるので、いつ、何をするか、細かい計画を立てる必要がある。基本的な考え方としては、試合の内容（チームシステム）に沿った練習メニューを作成する。これは、合理的に思えるが、それに捕らわれるとスキル練習が少なくなり、チームシステムを優先するかスキルアップを優先するか議論の分かれるところだ。

カナダは、1年毎のチーム作りが基本で選手の入替わりが多い。そのため、何人かの選手が入替わったことによりチームが良くなることもあるし、その逆もある。コーチとしては、選手のスカウトが大きな仕事の一つであるのと共に、良い結果を出すために選手の組み合わせをさぐる。選手達も自分にとって有利なパートナーは歓迎するが、自分がカバーしなければならないようであれば、交代を申し出たりする。選手も成績により自分を評価されるのを知っているし、それにより違った道に進めたり、スカーラシップが増額されたりと、はっきりした競争が存在する。このあたりが、カナダの強さの一番秘訣かもしれない。

選手達は自分の価値観を持っていて、何が良くて何が悪いか自分で判断する。コーチの大きな仕事は、選手達に自分のシステムやコーチングの考え方を理解させ、彼らにそれを信じさせることである。よく選手達にコーチがシステムやコーチングの考え方を売るといふ表現を使う。あくまでも、選手が主体でコーチはセールスマンで、自分の考えを押し付けるのではなく選手達が受け入れるように説明して、買ってもらわなければならない。プロ的な考え方と仕事の役割がはっきりしており、この国らしい考え方である。

チームのシステムは、ベーシックな1-2-2・ウィークサイド・ウイング・ミドルロックで、それほど戸惑うことはなかったが、BOが、センターストレッチ、ウィークサイド・ウイング・ミドル、ウィークサイド DF ジャンプと非常に攻撃的なシステムで、リスクが大きく、シーズン初めは、みんなが理解するのに時間がかかった。次は、DZCでポジションの取り方や各自の役割を教える。面白いのは、攻撃の練習が先で守りは後に来る。選手達も攻めの練習は好きだが、守りはあまり積極的ではない。GKのレベルが高いので、守りはDFとGKという意識が強い。選手達に守りの意識を持たせるのが、このリーグで成功するための要素のようだ。

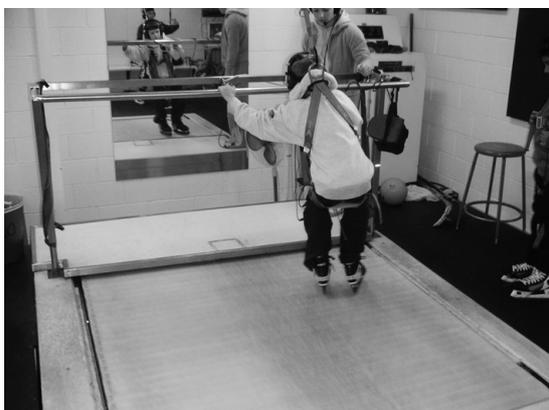
各チーム、独自の攻撃パターンを持っている。コンコルディアは、フェイスオフからの攻撃が一つの形で、フェイスオフからの動きが細かく決まっている。アメリカンフットボールに近い考え方だ。しかし、選手達に理解させるのは時間がかかり、成功するまで、あまり積極的に取り組まない傾向がある。これは、パワープレーにも共通している。選手達を信じさせるためにコーチは知恵を絞り説明する。

有効なのが、ビデオで目で見せるのが一番効果的である。しかし、注意する必要があるのは、すべて見えるため、悪いポイントがありすぎると、選手達にマイナスのイメージを植え付けることになる。何事もバランスが大切だが、特に神経を使うところだ。

②HOCKEY PROGLAM

10歳から16歳までの小学生、中学生、高校1年生までの選手達を、年代ごと（2歳ずつのカテゴリー）で9つのチームを作り、学校のクラブ活動の一環として、毎日、午後1～2時間の氷上練習、陸上アクティビティー、クラスセッションなどを行い、アイスホッケーに必要な知識を技術に身につけることと共に、学校教育との両立を図るのが目的とされている。選手のレベルにより、上の年齢のチームに移すこともあり、競争がすでにスタートしている。選手達は、その他にクラブチームに所属しており、HOCKEY PROGLAMの後、自分のクラブの練習や試合をこなす。コーチやインストラクターも特徴があり、学校の先生でフルタイムのクラスを持ち、なおかつ、このプログラムを手伝っている方、大学生ホッケー選手のアルバイト、外部からの契約でフィジカル部門を担当している専門家とスタッフのレベルが高い。

このプログラムでは、アイスホッケーのアクティビティーだけではなく、クラスセッション、オフアイストレーニングが充実している。オフアイストレーニングでは、スケートのトレッドミールを毎日、3人から6人ずつ行う。そこで、スケートフォームの確立を目指す。普段、氷上では十分時間をとれないことを補うアイデアだ。（写真参照）次に、ウエイトトレーニング。本来なら、体の出来ていない子供の時期にウエイトをするのはタブーとされていたが、ここでは小さい頃か



Hockey Proglam



Hockey Proglam2



Hockey Proglam3



Hockey Proglam4



Hockey Program5



Hockey Program6



Hockey Program7

らウエイトのフォームを教えることにより、将来の怪我の予防を考えている。(写真参照)年間、数回、体力テストも行われる。選手達の成長、強化ポイントを明確にしていく。クラスセッションで興味深かったのは、新しいNHLチームを作ってみようという試みだ。何人かのグループになり、都市を決め、チーム名、ユニフォーム、ロゴ、スタジアム設計、スポンサー、GM、監督などを決める。チケット収入やスポンサー収入などを考え、予算は、だいたい50億で、選手をドラフトしていく。プロスポーツが当たり前の国ならではの教育だと感じた。こんなことをすることにより、どんな選手がお金を稼げるか、どんな選手になるべきかが理解されるのではないだろうか。なおかつ、より一層アイスホッケーに興味を持ち、将来、選手として成功しなくても、他の道でホッケーに関われる教育を兼ねている。

カナダは、現在世界一のチームだが、一時期ヨーロッパの国に勝てないときがあり、子供の頃からの選手強化には特に力を入れている。相手のことを勉強して、よいところは取り入れると共に、自分達独自の強化プランも作っていく。トップのチームのプライドと柔軟さ、新しい考えを受け入れる余裕と自信を感じた。

子供達のコーチをお手伝いしたが、まずは英語がネックになり、言いたいことを伝えられず最後まで苦労した。次に子供達を見ていて、何を教えるべきか考えたが、自分がその頃何を教えてもらったかほとんど思いだせなかった。練習はしていたが、特に技術指導のようなものは無かったと思う。技術面、体力作り、栄養の取り方、強化ポイントなど必要だと思われることを地道に教育していき、なおかつ常にマイナーチェンジを繰り返しながら、より良いコーチング体制をとり、そして選手を作る。アイデアは多くの人が考えていることと遜色ないと思われるが、それを実行できる環境の良さと、考えの柔軟さに、世界トップを守るための真剣な取り組みを感じた。やはり、強いチームにはそれなりの理由がある。今後も引続きHOCKEY



PROGLAMの活動を勉強しながら、選手達が、どのように成長していくのか見守っていききたい。

③エドモントンオイラーズ

1)ゲームスケジュール

これは、通常、ホームゲームの日のスケジュールで、遠征先では変化がある。

・選手

9:00 控室集合

10:00 プリゲームスケート20min-30min

GKへシュート

体の切れを維持する

対戦相手を想定してBO, DZ, NZプレー

フェイスオフ

ボードプレー

個人スキル

各自昼食 休養

16:30 集合

17:30 プリゲームミーティング

18:30 ウォームアップ

18:55 スモールゲームポイント確認

19:00 ゲームスタート

アフターゲーム ショートコメント

・コーチ

7:00 集合ミーティング

各試合担当を決め対戦相手のプレゼンをする 2時間

9:45 スペシャルチーム (PP) 練習スタート

10:00 プリゲームスケート20min-30min

個人スキル練習 11:15まで

11:30 対戦相手の練習チェック

12:00 ゲームシート作成 (写真参照)

各自昼食 休養

16:00 リンク集合 次の試合の情報整理

17:30 ポリゲームミーティング

18:30 ウォームアップ

18:55 スモールゲームポイント確認

19:00 ゲームスタート

アフターゲーム ショートコメント

試合後 反省、選手評価、練習プラン作成、チェックポイント確認

解散



選手達はシーズン中、休みはほとんど無く（クリスマス、その他）氷上練習の無いときはバイク、ミーティング、オプション練習（個人スキルアップ）などで体を動かし、レベルアップに努める。コーチは、様子を見て、いつ休みを作るかフィジカル、メンタル両面に注意を払う。

2) コーチ組織

- ・ヘッドコーチ 1  
練習プラン作成とコントロール
- ・アシスタント 2 (FW、DF各一人)
- ・スペシャルプレー、オフENSEスキル、ディフェンススキル
- ・GKコーチ 1  
週2回程度練習に参加、マイナーリーグを含め6-7人の選手を指導
- ・コンディショニングコーチ 1  
コンディショニング維持のメニュー作り、怪我のリハビリ。

3) コーチの条件

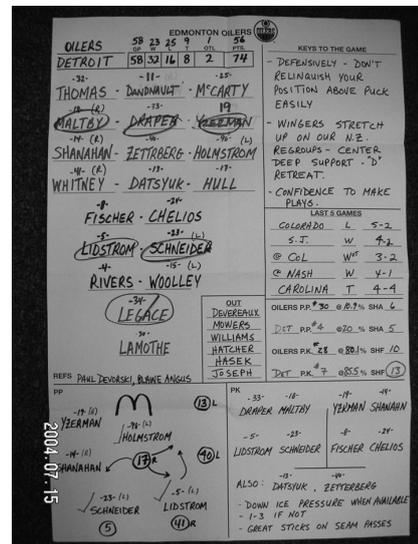
- ・強い信念を持っている
- ・自分のアイデアがある
- ・チームとして協力出来る
- ・コミュニケーションスキル、ティーチングスキルがある
- ・情熱
- ・仕事に責任を持つ
- ・スペシャルスキルを持っている

以上が、NHLのエドモントンオイラーズの基本的な考えと活動内容である。日本でも参考に出来ることがあるが、問題は、人材にあるように思う。

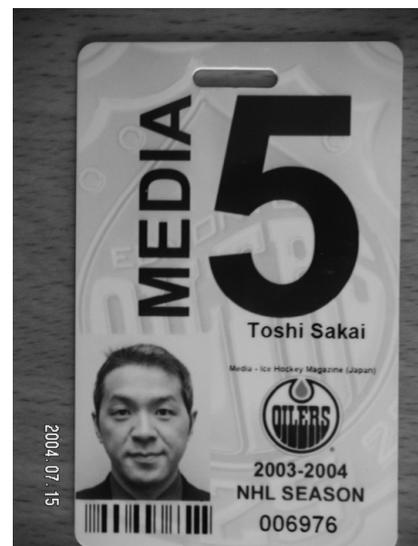
オイラーズには、プレスパスを出してもらい、練習、試合を自由に見ることができた。協力に感謝している。

④U25アメリカツアー

2003年12月24日から始まったU25のアメリカツアーで、ECHLのチームと対戦した。日本チームは、普段、チームでは、滞氷時間の短い選手が多く、この遠征をきっかけに、チームに戻った後、状況を変えられるようにするために、非常に高い集中



Oilers1



Oilers media pass

力で練習、試合に臨んでいた。日本代表という意味では、今シーズンすぐにチームに入るのは難しいが、2～3年後には主力となる可能性がある。この年代の強化は、連盟としても初めてで、継続した選手強化には、今後も必要なことだと感じている。

対戦したECHLは、NHLのマイナーリーグで、若い選手の強化の場である。20人を切る選手達で、週給400ドルほどでみんな生活している。だめならばすぐ



U25 USツアー

にトレードに出されるか、クビになる。しかし、上のリーグ（AHL）へ行き、最終的にNHLでプレーできれば、多くの報酬が約束される。もしくは、ヨーロッパや日本など海外でプレーするチャンスも生まれてくる。厳しい反面、大きなチャンスも存在する。

選手達のレベルは、日本の選手達と大きな違いはなく、試合をしていくうちに、日本の選手達も自信をつけ、対等以上の試合内容で戦うことも出来た。最終的には、試合経験、精神的、肉体的なスタミナ不足が一つの壁になっていた。その環境に入らなければ感じられないものもあるが、コーチングによりいかにそれらのことをカバーしていくかが今後の課題となる。

・2003. 12. 30 (火) アメリカ レディング

Reading Royals 1 - 0 - 2 3

Team Japan 2 - 0 - 0 2

1ピリ、すばらしい立ち上がりで、動きもよく体格さにも負けずフィニッシュチェックをして、相手のスピードを止め優位に試合を進める。4:42、5対3のチャンスに、百目木がリバウンドをたたき先取点を決める。8:01、同点ゴールを決められるがチームの動きは落ちず、ディフェンスゾーンでもディフェンスサイドからの守りと、福藤の好守でピンチをしのぎ、17:41、フォアチェックからチャンスを作り酒井が決める。その後も再三チャンスを作るが、得点を決められず1ピリ終了。2ピリ、動きは落ちたものの相手のプレーにもなれ自信を持ってプレーしていた。福藤の攻守も光ったが、途中から変わった、荻野もすばらしく、それに助けられチームの動きも安定していて危なげない試合内容だった。3ピリに入り疲れが出て動きが鈍る。前半10分は、ほとんどディフェンスゾーンでのプレー。相手のプレッシャーで足が止まり、パックを取り返してもブルーラインから出すのが精一杯でなかなか攻めにつながらない。6:53、ついに守りきれず同点とされる。その後、良い守りからチャンスを作るが、決定力が無くゴールを割ることが出来ない。16:09ついに逆転されるが、選手達は試合をあきらめず最後までゴールに向かう。普段プレー時間の少ない選手達だが、3日間の合宿の成果が伺える試合内容だった。対格差はあるが、スピード、スキルでは、十分対抗できるレベルで、選手達も、自身を持てた



ようだ。

- ・2004. 1. 3 (土) アメリカ ロングビーチ  
 Long Beach Ice Dogs 1 - 0 - 3 4  
 Team Japan 1 - 0 - 3 4

立ち上がり、前回の試合と比べて足が動かず、パスも弱くなかなか良いチャンスがつかめない。2試合目で慣れてきた分、相手に合わせるようなところがありスピード感のあるプレーが出来ない。試合を通して福藤の好守に助けられる。河村のラッキーな得点があったが、同点に追いつかれ1ピリを終える。2ピリに入り、少し動きは良くなってきたものの、相変わらずペースがつかめないのと、チャンスを決められず同点のまま3ピリを迎える。ここから前半10:00分は、素晴らしい動きとゴール前のきめで得点を重ねる。各セットが得点を取っており、チームの勢いも増してきた。4-1となってから選手達が落ち着いてしまったのか、また足が止まりブルーラインを割ることも出来ず、DZでの守りの時間が増える。守りに集中して攻めが単調になる。失点を重ねていってからは攻めるチャンスがほとんど無く、完全に試合をコントロールされてしまう。これもリーダーがいらないせいかな？最後はPSで決着はつけたが、勝てる試合を逃し、チーム全体が失望感に浸る。一人一人のプレーの質を高めることも大切だが、試合に勝つために必要なメンタルの強さが物足りない。しかし、選手達は全力でプレーしており、毎試合成長しているように感じる。

- ・2004. 1. 5 (月) アメリカ ロングビーチ  
 ECHL ALL STAR 2 - 2 - 3 7  
 Team Japan 1 - 0 - 0 1

惜しい試合を2試合勝ちに結び付けられず、この試合にかける意気込みは大きかったが、相手は今までとは違いオールスターで、元NHL選手も入っており、スピードは日本チーム勝っていたが、体の強さやテクニックではかなわずチャンスを決められてしまった。

対戦相手では有るが、彼らの技術力はすばらしく、ゴールを決める技術はさすがと言うべきか…

後半 日本は、何度も良い形を作るが、決定力が無く、点差を離されてしまった。得点差ほど内容は悪くなく、小さなミスから失点を重ねてしまった。

今日の試合は、経験の差が出たということか？

この試合の後半、GK福藤がECHLの要請で、オールスターチームで出場し、日本を無失点に押さえた。

- ・2004. 1. 6 (火) アメリカ ボイジー  
 Idaho Steelhead 2 - 1 - 3 6  
 Team Japan 1 - 0 - 0 1

最終戦と言うこともあり、選手達は何とか1勝を上げるために立ち上がりから積極的に攻め、速いプレッシャーからチャンスを作り、ゴールに向かい、パワープレー

のチャンスに、石黒選手が押し込み、先取点を奪う。その後は、1ピリに2失点、2ピリに3失点と、相手にリードを許すが、3ピリ最後に2ゴールを上げ、今回のツアーを終了した。選手達の顔には、悔しさと、自分のプレーに満足できない不満が表れており、ツアーでの成長を感じることが出来た。普段、出場機会の少ない選手達が生き生きとプレーしている姿は、頼もしく感じられた。試合後は、アイダホチームとのパーティーで、選手達は交流を図り、楽しい時間を持つことが出来た。このツアーで、ホッケーの技術だけではなく人間的にも視野が広がったと感じられた。

#### ⑤ノルウェー視察

- ・大会名：ユーロチャレンジ
- ・参加チーム：デンマーク フランス ラトビア ノルウェー
- ・場所：ノルウェー ゲジヨビック（リルハンメルの近く、オリンピックで使用した会場）
- ・目的 世界選手権で戦う、デンマークチームのスкауティング。
- ・デンマークチームの考察

体が大きくスキルの高い選手が多い。中心選手はスウェーデンリーグでプレーしており、スキルが高い。オフェンス力が高く、デフェンスはあまり集中していない。代表で長くプレーしている選手が多く、知っている選手が半分以上いた。システムは、1-2-2もしくは、1-4であまりはつきりせず、選手の判断で動いているところが多い。スペシャルプレーがうまく、PPで得点を重ねる。何人かのスキルの高い選手達が得点して、後は何とか守るというチームだった。カナダのような、フィジカルなプレーよりも、NZのプレッシャーからカウンターで攻めることが多く、どちらかと言うと、サッカーの戦術に近いプレーをする。日本にも十分勝つチャンスがあると確信した。

#### (5) コーチ研修準備

- ・ワーキングヴィザの取得=カナダでのアパート契約に必要。
  - 1ヶ月以上前の申請が望ましい。
  - 今回は2週間で取得することが出来たが、通常もっと時間がかかる。
- ・国際免許の取得
  - カナダ、アルバータ州では生活のために必ず車が必要となる。レンタカーを借りることも考えたが、保険が高く断念した。
  - 車を購入しても、保険は高額で、約\$4500カナダドルかかった。
- ・生活準備=思った以上に時間を取られた。
  - アパート、電話、ケーブルテレビなどの契約は、日本人だけでは認めてもらえないことが多く、現地に保証人が必要になる。
- ・アパートの契約
  - 保証金として1ヶ月の家賃を納める必要がある。
- ・家具



レンタル、または、購入するか状況によって、どちらが有利かわ変わってくるが、1年以上住む場合は、購入したほうが安いようだ。帰国の際には、ガレージセールなどで売ることも出来るが、時間がかかる。

・車

購入するのは、それほど難しくは無いが、保険の手続き、ナンバープレートの取得と自分で行わなければならないことがある。売却は、時間を要するので、早めに考える必要がある。

・必要経費	VISA取得	¥13,000	
	国際免許	¥2,650	
	航空運賃	¥250,000	(7月、1年オープン)
	傷害保険	¥100,000	(1年分) カナダ、アルバータ州には3ヶ月で、\$300ほどの保険システムがあり、誰でも入れ、医療費がカバーされる。
	アパート家賃	\$800 ~ \$1,000	駐車場など全て込み。
	家具購入	\$2,000 ~ \$2,300	
	レンタル	\$500 ~ \$700	／ Month
	電話保証金	\$200	\$50 / Month
	ケーブルTV	\$45	／ Month \$95コネクトフィー
	電気	\$30	／ Month
	車	\$4,500	保険 \$4,500
	生活費	\$2,000 ~ \$2,500	／ Month

(6) 強化の考え方

一年間のカナダでの海外研修を終え、今度は日本のアイスホッケー界がどうなっているのかを勉強する必要があるだろう。カナダの強化方法は、合理的で理にかなった形で進められている。しかし、この方法全てが日本にマッチするとも思えない。

日本が、まずやらなければならないのが、コーチの勉強の場を作ることだろう。日本の選手達は情報に飢えているように感じることもある。カナダには教科書のような本がたくさんあるが、日本ホッケー界では、まだそのようなものが普及していない。そのため、手探りで指導しているところが多く、特に西日本のほうでは情報が少ないようだ。

より良い指導をするためには、基本的なことは教科書に沿って教え、成長と共にお互い何をすべきか話し合う場を持つことが、みんなの利益につながるのと感じている。実際、カナダでもコーチ同士、仲間があり、その人たちはよく話をしているし、問題点を話し合い解決策を探っている。悪く言えば派閥のようなものだが、自分達のホッケー理論を確立させるためには必要なことではないだろうか。しかし、これも日本の環境で考えると、プロのコーチが存在しない状態では難しいかもしれない。どういふ人がコーチを出来るか、その辺を探っていくことが最初のステップとして考えられる。

コーチの勉強は、時間がかかる事で短期間に結果を出すのは簡単なことではない。

特に、子供達を教えるには、何を教えるかと共にどう教えるか、勝つホッケーと将来の選手作りは両立するのか、疑問が尽きない。少子化の現在、コーチとして選手達にアイスホッケーに興味を持たせ、なおかつ続けさせる魅力ある指導と、アイスホッケーを通して多くのものを学べる環境作りの必要を感じている。

次に、その選手達を代表チームまでどう繋げていくか、現在は、U16 U18 U20のチームがあり、各年代で目標となるもので、選手のモチベーションアップの助けになるだろう。

Jr時期に何を教えていくかが各年代スタッフの悩みで、短い時間で伝えることを絞り（代表として短期間の合宿しか出来ない3～4日間）学校チームとの連携も必要だ。選手を一人のコーチ、一つのチームで完成させることは出来ないの、選手が動いたときに継続した指導体制が取れるために、選手情報の共有が必要だろう。そのためのメディカル、メンタル、スキル、生活環境などの情報の整理をしていきたい。全体としてまだやれることが多さんある。

## (7) 総括

カナダの強化は特別なことはなく、幼い頃から年齢別に強化をしていき、優秀な選手は上のレベルでトライさせる。理論的で合理的に進められている。プロのリーグがあり、その選手になるのが強いモチベーションの一つとなっている。そのため、親達は多くの時間とお金をかけて、子供達をよい環境でプレーさせている。子供達を教えるプロが存在して、ホッケースクール、パワースケーティング（スケーティング練習）ゴーリーキャンプ、私が参加したHockey Proglamなど学校とホッケースクールが一緒になった物も多くなっている。子供の強化をととても大切にしており、レベルの高い選手を作るためのプログラムを作り、新たな考えを加えたり、プログラムを変えたりと選手を強化するスピードを増している。この辺の考え方は参考にすることが多い。

カナダは、世界レベルで一時期ヨーロッパのチーム（チェコ、スロバキアなど）に勝てない時期があったが、短期間で修正して世界の頂点に立っている。そこには、地道な強化と常に勉強や研究を続けるコーチの存在が大きい。プロのコーチとして活躍できるのはほんの一握りだが、それを目指して勉強している人は多く、また良いコーチを評価して次のステップにチャレンジさせる環境が整っている。良い仕事をした人間を見逃さない。過去の失敗より今の成功を評価するのも、日本とカナダの文化の違いだろうか。

今後の日本のあり方だが、やはり質の高い選手を作るには、良いコーチングが不可欠で、今までは選手強化に時間とお金を費やしてきたが、継続的な選手強化を行うには、環境作りとコーチングが伴わなければならない。選手と共に、コーチも成長していかなければならないし、コーチ以上の選手は現れない。

コーチングは、多くのことを勉強する必要がある、一人ですべてをカバーするのは不可能にちかい。カナダでは各自が得意分野を持ち、長所を出し合いスタッフもチームとなり選手を強化する。わかりやすい例が、フットボールで少なくとも6人以上のコーチがいる。詳しい仕事分担には触れないが、各コーチが責任を分担して、ヘッド



コーチは統括するのが役割である。アイスホッケー界を見ても、だんだんチームにかかわる人数が増える傾向にある。今後、日本でも細かい専門知識を持った人材の育成は大きな課題になると思われる。プロフェッショナルな集団作りが成功の鍵となりそうだ。

ホッケーカナダには5段階のコーチライセンス制度（ホッケーとしては3段階で、4, 5段階はトータルコーチとしてのライセンス。2005年から変更予定）があり、今回は特別に2段階までのライセンスを取らせていただいた。基本的な指導の考え、チーム運営の進め方、子供に対する接し方など、短時間ではカバーしきれないが、インフォメーションを渡し、コーチ同士の交流の場を提供して、なおかつ発言、指導させることにより、理解させ、自信をつけさせる場となっている。コーチとして、自信を持って指導できる環境を整えるのが連盟としてのサポートの考え方の基本にある。日本でも、ぜひ参考にしていきたい。ホッケーカナダのサポートには心から感謝している。

現在の日本選手のパフォーマンスピークを見ると30歳前後ことが多い。これは、体力だけではなく経験が加わるからであり、要するに学習が進み体力の衰えをカバーしている。フィジカル的なピークを考えると、これを、27歳まで引き下げるのが理想で、出来れば23～24歳までに体作り、ホッケーの戦術、生活習慣などを身に付けていれば、その後の成長が大いに期待できる。そのためのプログラム作りが必要だ。海外の強化プランを参考にしながら、日本国内で自分達で作る必要がある。要するに、自分の足で歩きはじめなければならない。日本の文化、生活様式などは日本人にしか理解できないものもあり、この国独自の強化システムを考えると来ていると感じている。

最後に、このような勉強のチャンスを与えていただいたJOCはじめ、関係各所の皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後とも、このような制度が続けられることが、日本スポーツ界のレベルアップの大きな助けになると考えております。魅力あるスポーツ環境を作るのにコーチの存在は非常に大きなパートを占めるようになってきております。これからも勉強を続けると共に、この制度で勉強した、みなさんの新しい情報も楽しみにしております。



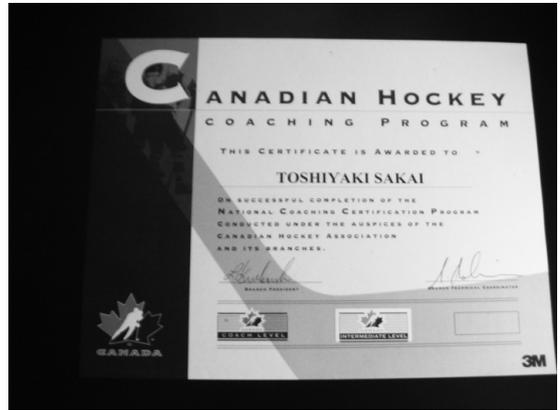
LA Kings Dressing room



LA Kings Video



NHL試合合間Kids game



ホッケーカナダ コーチライセンス